



私たちの元素—国際周期表年 (IYPT) 実行委員会

2018年5月15日、IUPAC 現会長の Qifeng Zhou 先生（元 北京大学学長、元 吉林大学学長）のご同席の下、日本学術会議第3部化学委員会 IUPAC 分科会が開催された。その場で Zhou 会長が、日本において国際周期表年 (International Year of the Periodic Table of Chemical Elements) 2019 を締めくくる閉会式を開催してはどうかと提案された。酒井 健委員長（九州大学大学院理学研究院・教授）は、このご提案を前向きに受け止めるべきと判断され、直ちに分科会での意見交換の後、分科会として、UNESCO が主催する閉会式を日本に誘致することを了承した。

IYPT2019 とは

2019年は、ドミトリー・メンデレーエフが元素の周期律を発見してから150周年に当たります。そこで、2017年11月、国連と UNESCO は2019年を「国際周期表年2019: International Year of the Period-

ic Table of Chemical Elements 2019: IYPT2019」とすることを議決しました。2年前に、4つの新元素名が確定され118元素がそろった結果、周期表の第7周期までが完成したことは記憶に新しいところです。その際113番目の元素が日本の理化学研究所仁科加速器科学研究センターのチームによって発見されたことからニホニウムと命名されたことはご存知のことと思います。2019年はこの118個の元素が並ぶ周期表の完成を記念するという意味においても、タイムリーな記念の年となりました。

この記念すべき年には、UNESCO の IYPT 閉会式の式典がパリで1月29日に開催され、メンデレーエフの誕生日である2月8日に、記念の式典がモスクワにて開催されるなど、すでに IYPT を記念する様々な企画が計画されています。この UNESCO の IYPT 閉会式を日本がホストすることになったことは、日本の学術のコミュニティーにとって大変喜ばしいことです。

日本学術会議第3部では、IUPAC 分科会での議論を受けて、化学分科会と物理学分科会が合同で、国際周期表年 (IYPT) 記念事業検討分科会 (委員長: 酒井 健) が設立されました。そして、日本における IYPT を充実したものとしていくために、分野の垣根を越えた議論が重ねられました。その結果、2月23日に日本学術会議講堂にて、公開シンポジウム「周期表が拓く科学と技術—国際周期表年を迎

えて」が開かれることになりました。

一方、閉会式を含め、2019年に開催される周期表に関わる様々なイベントを機動的に運営するためには、企業からの寄付などの資金提供を受けることのできる組織を作ることが必要となります。日本化学会では、IYPT 記念事業検討分科会と IUPAC 分科会の委員長である酒井先生からの打診を受けて、川合真紀会長のリーダーシップの下、日本化学会戦略企画委員会の小委員会として「国際周期表年 (IYPT) 実行委員会」を設置することになりました。委員長には、周期表の普及に尽力して来られた玉尾皓平先生（豊田理化学研究所所長）が就任され、日本学術会議と連携する形で、日本における IYPT を記念するための事業を展開することとなりました。

実行委員会メンバーには（以下、敬称略）、石切山一彦（IYPT 実行委員会副委員長・IUPAC 賛助会委員会委員長・東レリサーチセンター常務理事）、川合真紀（日本化学会会長・分子科学研究所所長）、福田 伸（日本化学会副会長・三井化学常務執行役員、研究開発本部長）、巽 和行（IUPAC 元会長・名古屋大学特任教授）、荒川泰彦（東京大学特任教授）、延與秀人（理化学研究所仁科加速器科学研究センター長）、若林文高（国立科学博物館理工学研究部）、澤本光男（日本化学会常務理事・中央大学教授）、鈴木慎一（日本化学会事務局長）の方々が、そして、筆者が幹事として参加することとなりました。



Qifeng Zhou IUPAC 会長を日本化学会にお迎えして



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



2019
IYPT
International Year
of the Periodic Table
of Chemical Elements

この物理学、化学、工学の分野にまたがり、産学連携体制で発足した実行委員会では、IYPT2019の機会に、次世代の科学を担う学生に周期表がいかに魅力的で美しいかを味わうことができる場を提供すること、周期表を通じて産学官の交流がより一層促進し、産学官を挙げてIYPTをお祝いすることを旨として、「私たちの元素」プロジェクトを推進することといたしました。

私たちの元素—エッセイコンテスト

「私たちの元素—エッセイコンテスト」は、学生（中学生、高校生、大学生が対象）が118個の元素の中から1つを選び、その元素についてエッセイ（作文）を書いて応募するという企画です。応募されたエッセイを厳正に審査の後、それぞれの元素について最も優秀なエッセイを中学の部、高校の部、大学の部で表彰します。そして、コンテスト終了後は、コンテストのウェブページに掲載した周期表のその元素をクリックすると、コンテストで選ばれたエッセイが掲載されたページが示されるようになります。第1回目のコンテストの応募の開始は2019年1月初め、締め切りは3月末、また、第2回目のコンテストの締め切りは9月10日となる予定です。このコンテストを通じて、学生の皆さんが、元素の周期表を通じて自然に親しむとともに、人類社会における元素の役割に対する理解を深める機

会となることを願っています。

私たちの元素—産学からのメッセージ

「私たちの元素—産学からのメッセージ」では、大学の学科、専攻、大学や公的研究機関の研究グループなど教育・学術研究に関わる組織やグループなどのユニットに、最もゆかりや関心のある元素（1つに限らない）を118個の元素から選んでいただき、学科・専攻・プロジェクトなどの特徴や成果を広告という形で、ウェブページの「産学からのメッセージ周期表」に掲載していただきます。また、日本の産業を支える企業や企業の研究開発のグループ等にも、最もゆかりや関心のある元素（1つに限らない）を選んでいただき、各企業や企業の研究ユニット等がその事業や研究開発の特徴や成果を広告という形でウェブページの「産学からのメッセージ周期表」に掲載していただきます。このウェブページの「産学からのメッセージ周期表」は、アカデミアや産業界がどの元素を中心に教育・研究・開発をしているかを互いに示すことができる賑やかな周期表となると期待しています。なお、広告費の収入は「私たちの元素—エッセイコンテスト」の運営などの教育活動、および、年末に予定されている閉会式の準備・運営に役立つこととしています。

周期表でつながろう

我々の世界は様々な元素によって構成されています。2019年は、その元素のもつ周期性の美しさを皆で味わうためのもとても良い機会です。日本化学会 IYPT 実行委員会では、「私たちの元素」プロジェクトや2019年3月17日に開催される日本物理学会・日本化学会合同シンポジウム「国際周期表年2019」、そして、IYPT2019閉会式を通じて、2019年が学生の皆さんと産学の研究者にとって意義のある楽しい記念の年となるように努力をして参ります。そして、日本学術会議 IYPT 記念事業検討分科会・IUPAC 分科会と連携し、この IYPT2019 が、次世代の若手人材の育成と未来志向の産学官連携に資するように努力をして参ります。また、2020年以降も周期表を通じて、教育研究と産学官連携に資することを目指します。

是非、ウェブサイト <https://iypt.jp> をブックマークしていただき、このウェブサイトを通じて IYPT2019 に関連するイベントの情報を共有していただきたくお願いいたします。私共は皆様と一緒に、エッセイコンテストの「私たちの周期表」と産学からのメッセージの「私たちの周期表」を作り上げていきたいと願っています。

〔国際周期表年実行委員会幹事 山内 薫
(東京大学大学院理学系研究科・教授)〕

© 2019 The Chemical Society of Japan